馬耳東風

平成時代の30年間を振り返る時，阪神・淡路大震災，東日本大震災等の多くの自然災害に因る悲惨な光景が最も強く脳裏に焼き付いている．一方，明るく楽しい出来事として頭に浮かんでくるものは非常に少ない．この期間，組織の一員として働き蜂の如く多忙な時期を過ごして来たため，心に余裕が持てなかったためかも知れない．その期間，生活基盤を整え，経済的にも人並みの生活ができていたと思うが，真に豊かな時代であったのかと自問する時，素直に「はい」と言えない．今は第一線を退き，仕事に追い立てられることもない日々を送っているが，今一つ心の充足感が無く，得体の知れない閉塞感に覆われているように感じる．

この閉塞感の背景には，何があるのだろうか．政治の世界では，今まで相互信頼の下，協調的に問題を解決してきたが，最近，唯我独尊，強権政治が支配する世界に変貌してきた．強権政治の下では政治家の行動指針は保身，利己主義になってくる．最近，政治家の失言問題，虚偽報告問題など，国民のひんしゅくを買う不祥事が頻発するも，責任を取らない，自浄作用が働かない硬直した組織となり，それに忖度する風潮と相まって，政治の質が低下してきたと感じる．経済の分野では，高度成長期を経て表面的には豊かな生活を手に入れた．しかし，平成期に至り，様々な分野で副作用的に歪が表面化してきた．会社・株主の利益最優先の経営理念が浸透した今，効率を追求する手段として労働分配率を低下させる方法が執られている．今の社会では自由は最も基本的な権利と認識されているが，余りにも利己的，排他的な考えが浸透してくると「これで良いのか」と疑問を抱かざるを得ない．我が国で民主主義が確立されて70年以上も経つと制度疲労が起こっているのだろうか．1989年11月，「ベルリンの壁」が崩壊した．その翌日，東独の物理学者が西独のデパートを訪れた際，「見るもの全てが新鮮で欲しい物ばかりだった」と述べていた．今，分裂しそうなEUの舵取り役として奮闘しているドイツのメルケル首相は，この経験で得られた「自由」の大切さとそれに伴う義務と責任の大切さを忘れないでほしいと世界に向かって訴えているように思われる．

米国フィナンシャルタイムズ紙のG. Tettは著書の中で「効率化を追求しすぎると反って効率が低下する」，そして「専門化した組織にする方が短期的には効率が上がるが，視野が狭くなり，リスクが解らなくなる」とも述べている．これらは正に日本で起こっている問題に警鐘を鳴らしている様に思える．厚労省の統計によると，1990年に881万人（20.2%）であった非正規労働者は2017年度には2,036万人（37.3%）に増加した．特に全非正規労働者の32%（約1/3）を25～44歳の人が占める現状は人口政策上も大きな問題と思われる．年間の自殺者は年々減少しているが昨年で2万人余，更に中高年の「引き籠り者」が60万人以上という統計がある．また，子供の自殺者が320名に達したという．先に国連機関から発表された世界幸福度報告によると2016年，日本の幸福度は世界で53位であった．この低さは社会における「寛容度」と「非腐敗度」の低さが関係しており，今の政治体質が強く影響していると想われる．人口減少，高齢化社会に入った今，国民が真に豊かさ，幸福感を感じられるような社会の実現に向かって舵を取ってほしいものである．　（青）